

ボール運動 ベースボール型 ティーボール

打って 走って 得点GET

1 単元について

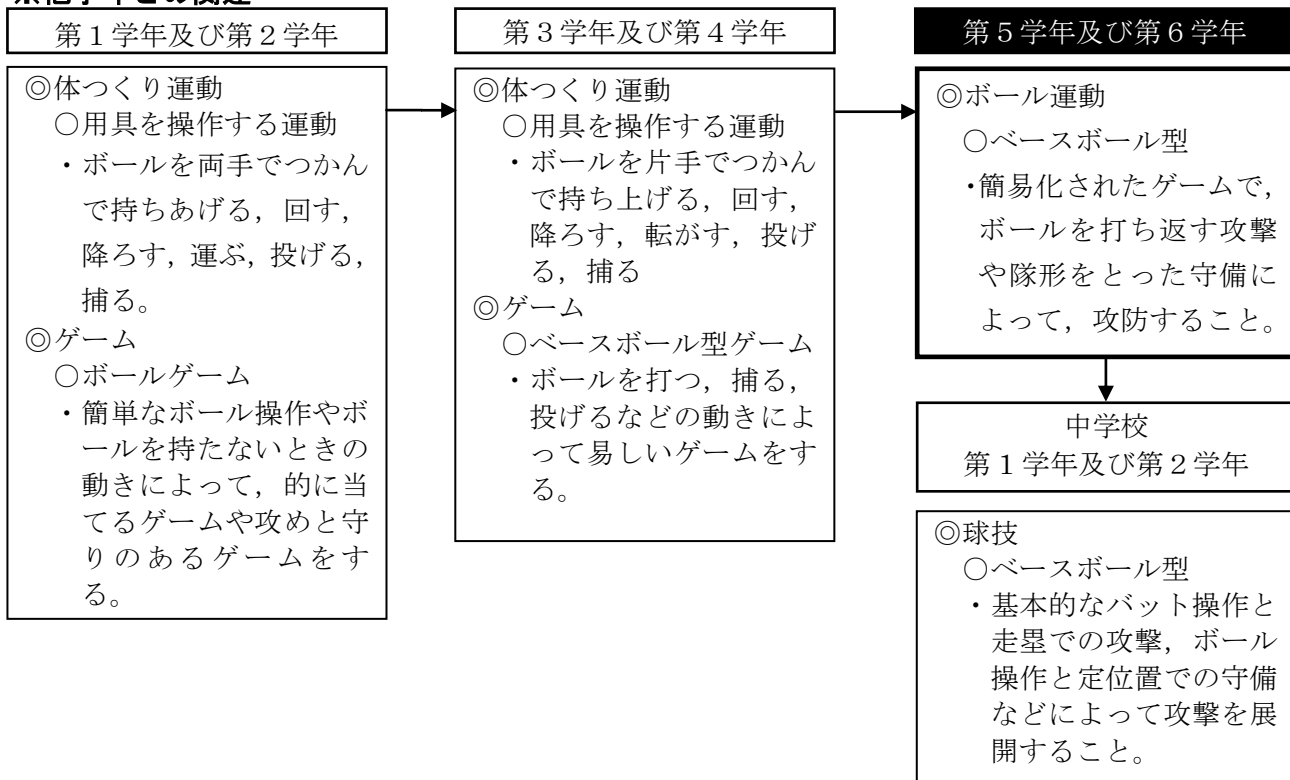
(1) 単元観

小学校学習指導要領解説体育編には、第5学年及び第6学年 E ボール運動ウベースボール型の内容として、「ベースボール型では、簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備によって攻防すること。」と示されている。簡易化されたゲームの一つの例示としてティーボールが挙げられている。ティーボールは、野球やソフトボールに極めて類似したゲームである。異なっている点は、ティーの上にボールを乗せ、止まったボールを打者がバット等で打つ点である。児童の実態や環境によって、野球やソフトボールの正式なルールを簡易化したり、変化したりすることができるゲームである。

止まったボールを打ったり、走塁したりして攻撃し、また、それを阻止するために捕球したり送球したりすることができるようになることや、得点するための走塁と進塁ができたり、チームとして守備の隊形をとってアウトにする動きができるようになることがねらいである。

本単元では、単元全体を3部に構成した。1部は、ゲームの特性を楽しませ、ボール操作を高めることをねらいとした授業展開とする。2部3部は、「学級対抗戦ティーボール大会」を単元終末に設定し、ボール操作やボールをもたないときの動きの技能を高めることをねらいとした授業展開とする。また、ゲーム構成としては、攻撃、守備、審判・得点グループを交代制で行っていく。単元全体として、攻撃面と守備面の課題を設定し、ゲームを通して、それらの課題を解決することにより、思考力・判断力の育成を図ることとする。また、仲間とのかかわりの中で、ゲームに進んで取組み、ルールを守って友達と助け合って練習やゲームをしたり、場を整備し、用具の安全に気を配ったりすることができる態度を養うこともねらいとする単元である。

※他学年との関連



(2) 児童観

本学級児童は、ほとんどの児童が外に出て体を動かすことが好きであるが、一部の児童は、室内で過ごし、読書や絵を書くなど、体を動かすことをあまり好んでいない。新体力テストの結果においては、ほとんどの項目において、前年度県平均に比べ、上回っていない。本単元に関わった項目では、「ソフトボール投げ」男子平均「23.4m」女子平均「15.9m」である。また、「50m走」男子平均「9.3秒」女子平均「9.6秒」いずれも前年度県平均を下回った実態である。

本単元を学習するにあたり、アンケートを実施したところ、体育科が好きな児童は22名、ボール運動が好きな児童は27名であった。体育科としては「好き」でなくても、ボールを使う運動になると興味をもって活動できる児童が多いことが分かる。そこで、「どんなボール運動が好きか」を問うと次のような結果となった。

サッカー	17名	ソフトバレーボール	6名
キックベースボール	9名	ドッジボール	2名
ソフトボール（野球）（ティーボール）	9名	ソフトテニス	2名
バスケットボール	7名	卓球	2名

サッカーやキックベースボールといった、「蹴る」ボール運動を好む児童が多い。また、キックベースボールやソフトボール等といった、ベースボール型のボールゲームに興味を持っている児童が多いこともわかった。

そこで、本単元であるティーボールについてアンケートを行った。

・ティーボールを知っていますか。	知っている。	24名（75%）
	知らない。	8名（25%）

「知っている」児童のうち、ティーボールが「好き」と答えた児童が21名（88%）であった。好きな理由に、

- ・ボールを打った時、気持ちがいいから。
- ・ボールを打ちやすいから。

などといった、ティーボールの特性に楽しさを感じている児童が多かった。

しかし、「いいえ」の理由に、

- ・走るのが嫌い。
- ・打っても遠くへ行かない。

といった、このゲームの特性に対して、楽しさを感じていない児童もいることが分かった。

体力としては、あまり高いほうではないが、ティーボールに関して興味をもっている児童や、この運動の特性を楽しむ児童が多いことを生かして、体力も高まるような授業展開が要されると思う。

(3) 指導観

- 打ったり、走ったりする技能面に苦手意識をもつ児童に対して、段階的に技能面を身に付ける為に、単元構成を3部として設定する。1部は、「打つ」楽しさ、仲間と一緒に動く楽しさを感じさせる構成とする。2部は、「打つ」「出塁」「走塁」ボール落下地点への「移動」から「捕球」「送球」の一連の動きが身に付けられるようなゲームを設定する。3部は、これまでの学習から、「ルール」や「ボール」の大きさを選び、チームの特徴に合った作戦を立ててゲームに挑戦する。最終時には、学級対抗戦ティーボールへとつなげる。
- 運動量を増やす為に、1チームを2つに分け、きょうだいチームとして設定し、1グループを5～6人とする。
- 3時間目までは、基本的な技能に自信を付けさせ、ゲームへの意欲を高めるために、「やってみよう」では、「打つ」「捕球」「送球」等の基礎的な動きを主にしたゲームを行う。
- 各単位時間における学習課題（問い）を解決させるために、「やってみよう」で、試しのゲームを行い、良い動きや問題となる動きについて話し合う時間を設定する。その後、本ゲームで課題を解決する動きにつなげていくようにする。
- 個人やチームの特徴を加味したルール作りをさせるために、ボールの大きさを変えた物を準備し、点差を付けるなど工夫させ、選択の幅を広げておく。

2 単元の目標

- ベースボール型では、簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備によって攻防することができるようにする。 【技能】
- 運動に進んで取り組み、ルールを守って助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 【態度】
- ルールを工夫したり、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てたりすることができるようにする。 【思考・判断】

3 単元の評価規準

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
<ul style="list-style-type: none"> ○集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、ボール運動に進んで取り組もうとしている。 ○ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとしている。 ○用具の準備や片付けで、分担された役割を果たそうとしている。 ○運動する場を整備したり、用具の安全を保持したりすることに気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベースボール型のゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを行うためのルールを選んでいる。 ○チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの特徴に合った作戦を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ベースボール型では、簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や隊形をとった守備をするための動きができる。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

攻撃チームの進塁を阻止するための隊形をとった守備をするための動きができるようにする。

(2) 評価規準

- ・攻撃チームの進塁を阻止するための隊形をとった守備をするための動きができる。

本時で目指す子供の姿（本時の goal）

- 攻撃側を進塁させないために、ボールを捕ったらすぐにホームや友達に向かって、ボールを投げることができました。
- ボールを捕って、アウトのサークルにすぐ投げるために、打者の構えによって、前で守ったり、後ろに下がったりして、守りました。
- 固まらないように守備をしたら、中継をしながら順々にパスをすることができ、進塁を阻止することができました。
- ボールを遠くに投げることができる〇〇君が、ボールをとってくれたおかげで、自分はすぐにアウトのサークルに向かって走っていくことができたので、進塁を阻止することができました。
- ボールがよそへ転がって行かないように、カバーするようにしていました。

(3) 思考スキルについて

獲得させたい思考スキル	学習場面	手立て・発問	予想される児童の反応例
構造化する	守備場面において進塁を阻止するための隊形を考える。	⑤ 「バッターの立つ位置によって、打ってくる方向はどうだった？」 「遠くに打たれた時の守備位置は？」 「ボールを捕れず、抜けてしまったらどうする？」 などの、考え方（見通し）をもって守備を行おう。	<ul style="list-style-type: none"> ・レフト側に体を向けて、バッターボックスへ入ったので、レフト側に寄っておこう。 ・〇塁にボールを投げるだろうから、カバーできる位置に動こう。 ・一回で〇塁に投げるのは無理だから、間に中継に入ろう。 ・アウト出来そうなサークルで待って、声をかけてボールをもらうようにするよ。

(4) 準備物

ティーボールバット，ボール（ゴムボール，ティーボール，軟庭ボール），ティー，フラフープ（大，小），得点板，学習カード

(5) 本時の学習展開

◆努力を要する児童への手立て

学 習 活 動	指導上の留意事項	評価規準 〔評価方法〕
1 準備体操，学習の進め方と学習課題の確認をする。（5分）		
<ul style="list-style-type: none"> ○主運動で使用する部位を中心にした，準備体操を行う。 ○学習の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主運動に対して，心身共に慣らすようにする。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・「打って 走って 得点GET1」1回目をためしのゲーム（やってみよう）として行う。 ・作戦タイム（1分） ・「打って 走って 得点GET2」2回目（挑戦しよう）を行う。 ・振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・守備面に対する課題の解決法の確認をする。 ・守備に対する問いを投げかけ、解決法を考えながらゲームを行うよう示唆する。 	
○学習課題を確認する。		

進塁を阻止する為に、どんな隊形で守備をしたらよいのだろう？

2 ティーボール「打って 走って 得点GET1」（やってみよう）を行う。（15分）

○学習課題をもって、試しのゲームを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・守備面における、良い動きや問題点（困り感）を感じながら試しのゲームを行うことを示唆しゲームに入らせる。 ◆打撃に、困り感のある児童に対して、ボールから最後まで目を離さない等、これまでの学習を想起させたり、チームの友達に、直接アドバイスするように働きかけたりする。 	
----------------------	---	--

3 学習課題に対する良い動きや問題点（困り感）について話し合う。（5分）

<ul style="list-style-type: none"> ○進塁を阻止する為に問題となる動き（困り感）について出し合い、どんな動きをしたらよいか話し合う。 ・作戦ボードを使って班で話し合い、全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進塁を阻止するためにどのような隊形となったらよいか考えさせる作戦タイムを1分間とる。 ◆守備に迷いをもつ児童のために、作戦タイムを有効に活用するよう促す。 ・捕球、送球、中継、カバーなどの進塁を防ぎ、アウトにする為のそれぞれの役割の動きや問題となる動きについて、話し合わせる。 ・ホワイトボードと役割を色分けした磁石を使って、良い動きや問題となる動きについて話し合わせる。 ・児童から問題点が出ない場合は、試しのゲームから見取れた問題となる動きを指導者から提示する。 	
---	--	--

言語活動の充実

4 ティーボール「打って 走って 得点GET2」挑戦する。（挑戦しよう）（15分）

<ul style="list-style-type: none"> ○「打って 走って 得点GET2」を行う。 ・3つの兄弟チームを設定。1つの兄弟チームをそれぞれAチーム、Bチームとし、2コートで行う。A、Bそれぞれ1コートに3チームが集まり、得点を競い合う。《攻撃》 ・止まったボールを打って、出塁する。 ・打ったら、1塁から、2塁、3塁を回って、ホームベースに向かって走る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3チームを、「攻撃」、「守備」、「審判・得点」とし、ローテーションでゲームを行う。 ・守備者が集まるベースは、ベース手前にフラフープを置き、安全を配慮する。 ・「審判」を3人とし、迷った場合は3人で多数決とする。 ・「得点」は誰が何塁まで走塁できたかを確認する。「アウト」コールの 	<ul style="list-style-type: none"> ○攻撃チームの進塁を阻止する為の隊形を考えた守備をしている。（行動・カード） （ボールの捕球、送球、ベースカバー）
---	--	--

<ul style="list-style-type: none"> ・「アウト」の声で走塁は止まる。 ・進塁できた所までが得点となる。(1塁までで1点。2塁までの進塁で2点。3塁までで3点。ホームまでアウトにならなければ4点。) ・ボールの選択によって追加点あり。(2回より) <p>《守備》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーバウンドでの捕球は「アウト」。 ・捕球して、ボールをつなぎ合い、走者より先の塁のサークル内で2人で手をつないで「アウト！」と叫ぶ。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">構造化する</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">多面的に見る</div> </div>	<p>聞き分けなど、役割分担をあらかじめ全チームにさせておくようにする。なお、毎時間、違う人が行うように配慮させるようにする。</p>	<p>一や、中継プレーなど、守備一人一人が役割を持った動きを考えている。</p>
--	---	--

4 本時の振り返りとまとめをする (5分)		
<ul style="list-style-type: none"> ○進塁を阻止するためにはどんな隊形で守備をしたら良かったかを話し合う。 友達の良い動きを賞賛し合う。 ・チーム内で発表する。(1分) → 全体で交流 ○整理体操をする。 ○片付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の良かった点、次時への課題やめあてをチーム内で確認させるようにする。 	

(6) 場の設定

